

「今を生きる」



伊藤 真一

陶芸家（木賊とくき主催）

（高校45回）伊那市在住

高校時代、私は成績が常に悪く、数学や科学を、将来どこで必要とするのか？そんな疑問を言い訳に勉強しない日々の毎日でした。

そんな私は今、陶芸を生業としています。

もともと手先は器用な方でしたし、何かを深く掘り下げて 独自の世界を作り上げていくことは、かなり性にあっていました。

ふと気がつくとは私は、実は 陶芸という名の全てが 科学によって説明できる世界に身を置いていたのです。

ロクロは力学によるものづくり、窯焚きは酸化還元熱量計算、釉薬は 化学反応による発色。

実際には、いちいちそんなこと考えませんが、理屈上必要な世界です。

「仕事は？」と聞かれ「焼き物やってます」と答えると、大抵「いいねえ」といわれますが、当然甘い世界ではありません。

でも自分で志した道なので好(い)い仕事だと思っています。

駄目な時はその過程の自分の責任だし、良い結果はそれまでの積み重ねがなければ生まれません。

偶然の良い作品でもいいんです。

その偶然に気づき、次に繋がれば、それは実力です。

そんなことを繰り返し、試行錯誤していくのは、何も陶芸だけではありません。

料理人やデザイナー、スポーツ選手にサラリーマン。

上司に使った言葉の些細な誤りに、お叱りをいただき「なんだよ」と思うのか「なるほど」と思うのかで、人生は瞬く間に方向を変えます。

それは若い人に限らず、誰もが人生を楽しむためのコツではないでしょうか？

私には無理と言いつつ、できない上でチョットやってみる。

これは私自身に向けた話です。

そして今陶芸という、木を倒し、土を掘り、窯を炊きCO2を出し、環境破壊をしている私が、今後

取り組んでいくべきことは、昨年買った、荒廃した山を中心に、森林の再生をしていくことです。
この取り組みが、実を結ぶのは、100年も200年も後かもしれません。
でも何もしないより 前に進みます。私はちょっとやってみようと思います。